

## 国際化学肥料ニュース（2024年5月）

### 肥料業界の2024年5月動態

- \* 4月28日、ロシア政府の公式ホームページに化学肥料輸出数量割当制度の延長を2024年11月30日までに延長する通告が掲載された。6月1日から11月30日までの6月間の化学肥料輸出割当数量1970万トン、そのうち窒素肥料1240万トン、化成肥料730万トンと決められている。なお、加里肥料の輸出には割当数量の規制がない。現在執行している2023年12月1日から2024年5月31日までの期間中に化学肥料輸出割当数量は1690万トンである。
- \* 5月第2週（6～12日）の尿素国際相場は小幅の下落が続いている。この週にはナイジェリア Dangote 社が FOB270 ドル/トンで EU に3万トン尿素、中東も FOB268～275ドル/トンでオーストラリアに輸出している。中国尿素の輸出がまだ厳しく規制されているため、マレーシアとインドネシア産尿素がやや高値を維持されている。インドネシア Pupuk 社は2回行った小粒尿素の販売入札には FOB306～312 ドル/トンの価格で契約した。ただし、インドと南米の需要が不足のため、北アフリカ産大粒尿素の FOB 価格がすでに280ドル/トン台に下がった。
- \* 中国税関の通関データにより、2024年第1四半期の中国化学肥料輸出先を判明した。

1. 尿素： 1～3月輸出量が92.3%減の2.57万トン、主な輸出先は、

国名	数量（トン）	輸出量に占める割合	金額（ドル）
韓国	13,050	50.8%	4,798,000
マレーシア	7,325	28.5%	3,128,770
香港	4,948	19.3%	1,044,187
その他	347	1.4%	133,562
合計	25,670	100.0%	9,104,519

2. 硫安： 1～3月輸出量が10.7%増の309.74万トン、主な輸出先は、

国名	数量（トン）	輸出量に占める割合	金額（ドル）
ブラジル	553,201	17.9%	84,016,940
ミャンマー	371,306	12.0%	67,476,632
ベトナム	312,860	10.1%	39,258,350
インドネシア	224,851	7.3%	29,953,462
グアテマラ	185,194	6.0%	23,974,644
マレーシア	170,206	5.5%	19,728,744
タイ	169,258	5.5%	23,620,251
ナイジェリア	138,049	4.5%	21,496,867
メキシコ	131,312	4.2%	19,414,026
その他	841,199	27.2%	127,710,921
合計	3,097,436	100.0%	456,650,837

3. MAP： 1～3月 MAP 輸出量が 81.3%減の 9.96 万トン、主な輸出先は、

国名	数量（トン）	輸出量に占める割合	金額（ドル）
オーストラリ	55,549	55.7%	30,480,908
チリ	12,140	12.2%	6,004,144
インドネシア	4,133	4.1%	2,323,666
マレーシア	3,881	3.9%	2,075,247
ブラジル	3,123	3.1%	2,292,993
インド	2,944	3.0%	2,325,978
メキシコ	2,381	2.4%	1,780,679
南アフリカ	1,532	1.5%	1,206,395
イタリア	1,350	1.4%	1,177,334
その他	12,609	12.7%	9,730,546
合計	99,642	100.0%	59,397,890

4. DAP： 1～3月 DAP 輸出量が 77.7%減の 14.15 万トン、主な輸出先は、

国名	数量（トン）	輸出量に占める割合	金額（ドル）
インド	44,334	31.4%	25,682,307
タイ	36,393	25.7%	20,495,030
日本	27,660	19.5%	16,494,385
北朝鮮	15,130	10.7%	9,669,812
ベトナム	14,300	10.1%	8,502,090
その他	3,611	2.6%	2,275,729
合計	141,528	100.0%	83,119,353

5. NPK 化成肥料： 1～3月 NPK 化成肥料輸出量が 59.1%減の 5.67 万トン、主な輸出先は、

国名	数量（トン）	輸出量に占める割合	金額（ドル）
ミャンマー	33,599	59.2%	12,295,555
フィリピン	8,040	14.2%	2,819,996
マレーシア	7,562	13.3%	2,757,031
ラオス	4,124	7.3%	1,963,269
オーストラリ	1,153	2.0%	693,687
その他	2,271	4.0%	1,232,755
合計	56,749	100.0%	21,762,293

\* この数年間、インドの尿素産業が飛躍的に発展してきた。2014年から尿素工場を新設する一方、老朽化した工場も順次に更新を行ってきた。その結果、2019年の国内尿素生産能力 2500 万トンだったが、2023 年末現在に 3100 万トンに達し、2024 年にさらに 2ヶ所計 250 万トン超の新規生産能力が稼働する見込みである。生産能力の増強により、尿素輸入量が減少してきた。2022 年の尿素輸入量 735 万トンだが、2023 年に 575 万トンに減少し、2024 年に輸入量が 400 万トン以下に下がる可能性がある。また、インド

政府は 2025 年以降、国内尿素生産量が需要量を賄うことができ、輸入尿素への依存度がほぼゼロとなる計画である。

- \* 5月第2週（6～12日）のりん安国際相場は引き続き下落している。主な原因は最大需要家のインドが低値を要求してきたことである。まず、インド NFL 社は5月6日に開札された5万トン DAP の国際入札をキャンセルした。その理由は応札したのは1社しかなく、応札価格（CFR530/トン～）も予定値を超えたためである。その後、インド GSFC 社の DAP10万トンの国際入札には2社の応札があり、応札価格は CFR510～520 ドル/トンに下がった。また、インドもう1社の Smartchem は5月9日締め切りの DAP 国際入札に応札した6社に CFR479 ドル/トン を逆要求している。この入札には応札価格が CFR510～520 ドル/トンであった。また、Hindalco 社は DAP の入札に CFR508 ドル/トンで4～4.5万トンの購入を決めた。
- \* 5月7日、パキスタン経済調整委員会（ECC）は6月からの Kharif シーズンに20万トン尿素を輸入するための外貨支出を許可した。パキスタン国家化学肥料発展センター（NFDC）は4月末の国内尿素在庫量が17万トンしかなく、6月需要量80万トン、7月需要量65万トンと予測したデータがあり、ECC は国内の尿素需要量が国内生産量（52～55万トン/月）を超えたため、輸入での対応しないと判断した模様。
- \* インド RCF 社は 20-20-0+13S の化成肥料5万トンと 10-26-26 の化成肥料5万トンの国際入札を発表した。5月16日締め切り、RCF 社との長期供給契約を締結したメーカーしか入札できず、6月20日までに船積みという条件である。4月に RCF 社が 20-20-0+13S の化成肥料10万トンの国際入札を行ったが、1社だけ応札し、応札価格が CFR362 ドル/トンで、同時期にサウジアラビアの Ma'aden 社が別のインド商社に出した価格より17ドルも高くなることを判明して、契約に至らなかった。
- \* 中国税関の速報によれば、2024年4月の中国化学肥料輸出量が前年同期より17.3%増、前月より7.1%増の210万トン。その内訳は硫安93万トン、尿素0.52万トン、DAP40万トン、MAP21万トン。尿素の輸出量が大幅に減少した。  
一方、2024年4月の中国化学肥料輸入量が前年同期より13.6%減、前月より27.5%減の95万トン。その内訳は塩化加里76万トン、NPK 化成肥料14万トン。ほかにアンモニアも5.4万トン輸入した。
- \* 5月第3週（13～19日）の尿素国際市場は下落を止め、7週間ぶりに値上げに転じた。主な原因は EU とトルコが尿素を大量に購入することである。この1週間だけでエジプト尿素の輸出契約量が25万トンに達し、FOB 価格も30ドル上がって、310ドル/

トンになった。また、中東尿素の FOB 価格が 275～285 ドル/トンに安定しているが、メーカーはすでに 6 月輸出分に FOB285～290 ドル/トンを要求している。アメリカの FOB Nola 価格がすでに 290 ドル/トン、ブラジルの CFR 価格も 305～315 ドル/トンに反転した。

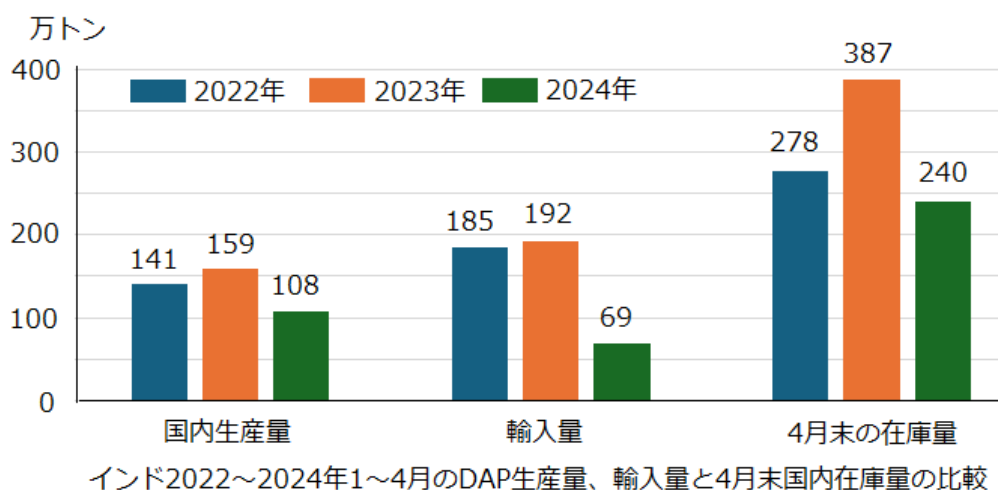
- \* バングラデシュ政府購買委員会 (CCGP) は 2024 年財政年度に数件計 17 万トン化学肥料の輸入に外貨の支出を承認した。その内訳はバングラデシュ国営 BADC 社がカナダから 4 万トン塩化加里 (CFR 327.75 ドル/トン)、サウジアラビアから 4 万トン DAP (CFR 554 ドル/トン)、国営 BCIC 社がカタールから 3 万トンバルク尿素 (CFR 282.50 ドル/トン)、サウジアラビアから 3 万トンバルク尿素 (CFR 288.33 ドル/トン) と 3 万トン袋尿素 (CFR 366.38 ドル/トン) を購入する。また、バングラデシュ政府は化学肥料の保管と配送のために国内 4 カ所に流通倉庫を建設することも決めた。
- \* 5 月 21 日、中国大手尿素メーカー 20 社はそれぞれ声明を発表し、国内尿素価格の高騰を抑えるために販売価格を安定させることを承諾する。主な内容は国内向けに尿素供給量を全力的に保障するうえ、窒素肥料価格を極力安定させることである。「即日から尿素輸出の注文を承らず、尿素の工場出荷価格が原則的に 5 月 21 日の価格を超えないように抑える」と宣言するメーカーもある。
- \* ブラジル税関の速報によれば、2024 年 4 月の MAP 輸入量が史上最多の 37.8 万トンに達した。そのうちロシアから 26 万トン、モロッコから 6.7 万トン、サウジアラビアから 5.2 万トンである。1～4 月の MAP 輸入量 102.5 万トン、その 76%はロシア、15%はモロッコ、6%はサウジアラビアからの輸入である。ロシア MAP 輸入量が急増した理由は価格が最大の要因であるが、いままで多く輸入されたモロッコ品とサウジアラビア品が高値のインドやオーストラリアに流され、中国品は政府の輸出規制で輸出が厳しく規制されることであるといわれる。
- \* インドネシアの Pupuk 社は 5 月 17 日に開札された塩化加里の国際入札に 7 件の応札があると発表した。塩化加里の国際相場低迷を受け、粉状 (小結晶) 塩化加里に 5 件の応札あり、最低応札価格は CFR301 ドル/トン、大粒塩化加里に 2 件の応札あり、最低応札価格は CFR330 ドル/トンである。
- \* インドと大手加里メーカーとの間に行っている 2024 年度塩化加里輸入基本契約の商談は最終段階に入った。業界内にインドの 2024 年度塩化加里 CFR 価格が 280～285 ドル/トンで契約するだろうと推測される。

\* カタールの Qatar Energy 社はアメリカの Koch Fertilizer LLC と長期尿素供給契約を締結した。2024 年 7 月から 15 年間に年間最大 74 万トン尿素を供給する内容である。

\* 5 月第 4 週（20～26 日）の尿素国際相場は 2 週連続上昇した。南米と EU の需要が現れ、買手は尿素を買い集める動きが活発になっている。東半球では、この 1 週間だけでインドネシアの Kaltim 社は FOB312 ドル/トンで 20 万トン大粒尿素、サウジアラビアの Sabic 社は FOB295 ドル/トンで 2 万トン小粒尿素、エジプトの Mopco 社は FOB286 ドル/トンで 2.5 万トン、Alexfert は FOB287 ドル/トンで 5000 トン小粒尿素を販売した。売手側はイラン産尿素的の FOB 価格 260 ドル/トン、エジプト産大粒尿素的の FOB 価格 323 ドル/トンを要求し、2 週間前より 20～30 ドルも上がった。

西半球では、ナイジェリア Dangote 社は FOB300 ドル/トンでブラジルに 2.5 万トン大粒尿素的を販売した。ブラジルの 7 月納品の大粒尿素的の CFR 価格はすでに 325 ドル/トンに上がった。

\* インドからの情報によれば、2024 年 1～4 月のインド国内 DAP 生産量が 32.1%減の 108 万トン、輸入量が 64.1%減の 69 万トン、4 月末現在の在庫量が 38%減の 240 万トンで、6～10 月の季節風シーズン（Kharif）の需要を対応するには生産量と輸入量をさらに増やす必要があると報道した。下図はその比較である。



\* バングラデシュ政府は 6～10 月の季節風シーズン（Kharif）の需要を対応するために国営 BCIC 社に国際入札を経て DAP 原料とする粗りん酸 4 万トンの輸入を許可した。第 1 回の国際入札はすでに 4 月 30 日に締め切り、1 万トン粗りん酸の輸入を契約した。2 回目の入札は 5 月 6 日に締め切り、3 万トン粗りん酸を契約する予定である。ほかに国営 BADC 社にサウジアラビアの MA'ADEN 社から CFR581 ドル/トンで 4 万トン

DAP、ロシア Prodiatorg 社から CFR289.75 ドル/トンで 3 万トン塩化加里の輸入を許可した。

- \* 5 月中旬から始まった尿素国際価格の上昇に対し、アンモニアの国際市況が低迷している。その理由は北米の春栽培シーズンの終了に伴う需要の減少とロシア産アンモニアの黒海からの輸出が 6 月から再開されることである。

ノルウェーの Yara 社は天然ガスの供給不足によりカリブ海地域に所有する 2 プラントのうち 1 プラントが完全に停止し、もう一つのプラントは稼働率を下げている。それにもかかわらず、6 月積みの CFR アメリカ Tampa 港が 400 ドル/トンまで上がった。ロシアの UralChem 社は 6 月から黒海の Taman 港から中型のタンカーを使ってアンモニアの輸出を再開し、最初のお客様がモロッコの OCP 社であることを発表した。また、これからも毎月 4 万トンの輸出を計画しているとも発表した。その影響を受け、サウジアラビア産アンモニアの 6 月 FOB 価格が 355~360 ドル/トンまで下落した。

#### 大手各社の営業業績

- \* カナダの Nutrien 社は 2024 年第 1 四半期の業績を発表した。化学肥料販売量は加里肥料が 29.5%増の 341.3 万トン、窒素肥料が 6.4%増の 250.7 万トン、りん酸肥料が 13.1%増の 62 万トンと前年同期より増えたが、販売価格の下落で、売上高が 12%減の 53 億 8900 万ドル、EBITDA が 26%減の 10 億 5500 万ドル、純利益が 71.4%減の 1 億 6500 万ドル。
- \* アメリカの Mosaic 社は 2024 年第 1 四半期の業績を発表した。化学肥料販売量は加里肥料が 16%増の 220 万トン、りん酸肥料が 11%減の 160 万トン、化成肥料が 19%減の 170 万トン、販売量の減少と販売価格の下落で、売上高が 26%減の 27 億ドル、EBITDA が 26%減の 5 億 7600 万ドル、純利益が 90%減の 4500 万ドルしかない。
- \* アメリカの CF Industries 社は 2024 年第 1 四半期の業績を発表した。アンモニア生産量が 9%減の 215 万トン、尿素生産量が 20.8%減の 96 万トン、販売量が 17.5%減の 109 万トン、UAN（尿素硝安液肥）生産量が 2.1%増の 163 万トン、販売量が 3.1%減の 161 万トン、硝安生産量が 12.1%減の 34 万トン、販売量が 4.3%増の 39 万トン。販売量の減少と販売価格の下落で、売上高が 17%減の 14 億 7000 万ドル、EBITDA が 47%減の 4 億 5900 万ドル、純利益が 65.4%減の 1 億 9400 万ドル。

\* ドイツの K+S 社は 2024 年第 1 四半期の業績を発表した。加里肥料販売量が 16%増の 200 万トンだが、販売価格の下落で、売上高が 18%減の 9 億 8800 万ユーロ、EBITDA が 66%減の 2 億ユーロである。

\* オーストラリアの肥料大手 Incitec Pivot 社は 2024 年上期の業績を発表した。アメリカカリフォルニア州 Waggaman にあるアンモニアプラント売却のほか、オーストラリアクイーンズランド州ギブソン島にある肥料工場の閉鎖もあり、純損失 1 億 4800 万ドルを計上した（前年同期の純利益 3 億 5400 万ドル）。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

\* スウェーデンの Cinis Fertilizer 社は Örnköldsvik 市に建設している硫酸加里工場が完成し、稼働し始めたことを発表した。当該工場は 2023 年 2 月から着工、2024 年 4 月末に完成、5 月から稼働し始めた。塩化加里を原料として、マンハイム法を使って、年間 10 万トン硫酸加里を生産する。

\* オーストラリアの Reward Minerals 社は Carnarvon Potash プロジェクトのライセンスを政府のエネルギー・鉱山・産業規制・安全省から取得したと発表した。Carnarvon 加里プロジェクトは西オーストラリア州の Lake Macleod に天日製塩で残された鹹水から年間 8 万トン硫酸加里を生産する計画である。

\* EU の FertigHy 社はフランス北部の Hauts-de-France 地域に最初の低炭素窒素肥料工場を建設することを発表した。FertigHy 社は EU 肥料産業の低炭素移行のために EIT InnoEnergy、RIC Energy、MAIRE、Siemens Financial Services、InVivo、HEINEKEN の共同出資によって設立された合弁企業である。Hauts-de-France 工場は 2027 年から建設し、2030 年完成・稼働する計画である。投資額 13 億ユーロ、年間 50 万トン低炭素窒素ベース肥料を生産する。また、スペインに 2 番目の低炭素肥料工場を建設する計画も発表した。

\* ロシアの EuroChem 社はカザフスタン Jambyl 県に建設中の Janatas リン酸塩プロジェクトのフェーズ 3 工事を開始すると発表した。当該プロジェクトのフェーズ 1 はりん鉱山の開発とりん鉱石の精製で、すでに完成し、りん精鉱を産出した。フェーズ 2 は硫黄から硫酸を製造し、りん鉱石からりん酸を抽出する工場、すでに着工して 2026 年に完成し、稼働する計画である。フェーズ 3 はりん鉱石からりん酸を抽出した後に残されるりん石膏と塩化カルシウムを建設資材やその他の資材に転換させる工場である。Janatas リン酸塩プロジェクトに合計 10 億ドル以上を投資して、最終的に年間りん酸肥料 100 万トンを生産する計画である。

- \* カナダの First Phosphate Corp.社はケベック州 Saguenay-Lac-St-Jean に計画している Bégin-Lamarche りん鉱山開発プロジェクトの探鉱結果を公開した。2024年4月29日に完了したに総延長 25,929m の 29 個の掘削孔から長さ 3km 以上、最大厚さ 90m、平均 P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 含有量 11.85%のりん鉱石鉱脈が確認され、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 含有量 30.73%の鉱脈厚さが 2.1m もある。なお、このりん資源は火成岩系の鉱脈である。

First Phosphate 社の CEO である John Passalacqua 氏は、「当社の Bégin-Lamarche プロジェクトにおいて、3km のストライクゾーン全体で継続的に高品位のリン酸塩が存在している結果が得られたことに満足している」と声明を発表し、「りん資源埋蔵量を推定する準備を開始し、すぐにも予備経済評価（「PEA」）を実施する。」と述べた。

- \* エジプトの Fertiglobe 社は TA'ZIZ（ADNOC とアブダビの政府系ファンド ADQ の合弁会社）、三井物産、GS エナジーコーポレーションと共同で、UAE（アラブ首長国連邦）の TA'ZIZ Derivatives Park に低炭素アンモニア工場を建設している。生産能力 3000 トン／日、年間約 100 万トンブルーアンモニアを生産する予定で、2027 年完成、稼働する計画である。

## その他

- \* カナダ国営鉄道（CN）とカナダ太平洋鉄道（CP）の労働者約 9000 人は投票でストライキを行うことに賛成した。このカナダ史上最大規模のストライキは 5 月 22 日から行い、鉄道の運行がほとんど停止する見通しである。ストライキにより、カナダ産塩化加里の輸出に大きく影響を及ぼす可能性がある。
- \* アメリカ商務省はモロッコから輸入されるりん安が不当競争と判断されたことに関連して、2024 年 11 月からモロッコ産りん安のダンピング関税を 2.12%から 14.21%に引き上げると発表した。これに対して、全米トウモロコシ栽培者協会（NCGA）はダンピング関税の引き上げがトウモロコシや大豆などの栽培に必要なりん安肥料の価格高騰につながるという反対の意見を提出した。
- \* メキシコ政府は 5 月 9 日から輸入硫安に 35%の輸入関税を徴収すると発表した。関税徴収の理由は国内硫安の生産と使用を促進し、国内資源を最優先に利用するという。硫安は主にアメリカと中国から輸入し、2023 年中国硫安輸入量が 38.5 万トンに達した。
- \* アメリカ農務省（USDA）長官トム・ヴィルサック氏は、アメリカの農家、牧場主、農業生産者の競争力を強化するため、USDA が国内の肥料プロジェクトへの投資をさら

に上積みすると発表した。いままで USDA は政府の肥料生産拡大プログラム (FPEP) を通じて、29 州の 57 件のプロジェクトに 2 億 5,100 万ドルを投資している。2024 年のアメリカ大統領選挙を控え、バイデン大統領は再選のために行った政策の一つである。

\* 5月7～9日ケニアのナイロビに開催されたアフリカの肥料と土壌保全フォーラムに各国政府はこれからの10年にアフリカ農家の化学肥料需要を満たすために化学肥料生産量と販売量を3倍増やすことを約束した。また、ジンバブエにあるアフリカ肥料開発センターを復活させ、化学肥料と有機肥料の研究と開発を強化することを合意した。

2006年から2023年までにアフリカの化学肥料消費量は農地ヘクターあたりが6kgから25kgまで増加したが、目標の50kgに遠く届かない。2050年アフリカ人口が24億人に達し、食糧を確保するために農業生産量を倍以上増やす必要があり、その最大の課題点は化学肥料の不足である。2050年にアフリカ大陸全体に3000万トン化学肥料が必要とされている。